「１９５０年国勢調査」復刻版について

1　本復刻版は、以下の原資料を基に再編集したものである。

（１）「　琉球統計報告
MONTHLY　STATISTICS　OF　THE　RYUKYU　ISLANDS
１９５０年国勢調査特集号
１９５２年　　５
第２巻第５号
琉球政府行政主席統計局　」

（２）「　POPULATION　CENSUS
1　DECEMBER　1950　」

本資料は、沖縄県統計課の統計資料閲覧室に所蔵されている各市町村毎の第１表から第２１表までを収録した。

なお、奄美群島、宮古群島などについては、総務庁統計局統計図書館から所蔵資料の写しを提供してもらった。

2　「POPULATION　CENSUS　1　DECEMBER　1950」について

（１）総務庁統計局統計図書館（国立国会図書館分館）に所蔵されている「POPULATION　CENSUS　1　DECEMBER　1950」は、全琉球、各群島毎、各市町村毎に謄写刷り（Ａ４版）され、これを金属ファスナーで厚紙フォルダーに結果公表単位として綴るられている。

統計図書館によれば、本資料は国立国会図書館（本館）にもないとのことである。一方、県立図書館、県立公文書館にも収蔵されていない。また、県内の市町村にも照会してみたが見つからなかった。

従って、本資料の全体が収蔵されているのは、国内では統計図書館のみであると考えられる。そして、本調査が琉球列島軍政府の布令に基づいて実施されたことから、米国の公文書館にも収蔵されているものと考えられる。

なお、県立公文書館には、本調査関連の英文資料がマイクロフィッシュで収蔵されている。

（２）調査結果の公表にあたっては、上記のファスナー止めの形で市町村等の関係機関に配布されたものと考えられる。

3　「１９５０年国勢調査」の復刻について

戦後沖縄の出発にあたってもっとも重視された統計が、本調査であると考えられるが、県内にはその資料は部分的にしか存在しないため、市町村毎の実態の把握ができなかった。

また、「琉球統計報告」についても５０年近くの歳月を経てボロボロの状態にあり、一般の閲覧に応えられなかった。

従ってこれらの資料の利用のためには復刻が必要であり、今回奄美群島も含めた形で復刻編集したものである。

4　編集について

（１）第１編　　総括及び沖縄群島その１
琉球統計報告の「まえがき」から１９５０年国勢調査概要（原本４５頁）まで　（統計表は省略）
「POPULATION　CENSUS　1　DECEMBER　1950」の 001All Ryukyu　全琉球から 14 Ie son 伊江村まで

第２編　　沖縄群島その２
「POPULATION　CENSUS　1　DECEMBER　1950」の 15 Ishikawa shi 石川市から 34 Itoman cho 糸満町まで

第３編　　沖縄群島その３
「POPULATION　CENSUS　1　DECEMBER　1950」の 35 Kanegusuku

son 兼城村から 56 Yagaji son 屋我地村まで

第４編　奄美群島

「POPULATION CENSUS 1 DECEMBER 1950」の 300 Amami Gunto 奄美群島から 79 Yoron son 与論村まで

第５編　先島

「POPULATION CENSUS 1 DECEMBER 1950」の 400 Miyako Gunto 宮古群島から 93 Yonaguni cho 与那国町まで

（２）「POPULATION CENSUS 1 DECEMBER 1950」には 600 Northerm Okinawa, 700 Southern Okinawa もあるが省略した。

（３）「POPULATION CENSUS 1 DECEMBER 1950」には誤タイピングがかなり見られたので、総計の数値を基にして表中の各値を訂正し、数値の前にａ，ｂ、ｃを付した。訂正前の数値は表外に注記した

（４）前記のとおり、各結果公表単位（市町村毎）レベルでの計数の適否については上記のように検討したが、「全琉球」、各「群島」までの積み上げについては今後の研究が必要である。

（５）「POPULATION CENSUS 1 DECEMBER 1950」には、各結果公表単位毎に

表紙
各結果公表単位一覧（市町村コード付き）
調査の沿革（和文）
調査の沿革（英文）
結果表目次（和文）
結果表目次（英文）

が付されているが、本復刻では第１編では「全琉球」の全段に、第２編以降では目次用として１～６ページを付加した。

（６）「琉球統計報告」は、項目記号の付け方が現在の方法とはかなり違っていたので、これを付け替えた。